

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		奈良大学		設置者名		学校法人奈良大学		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成21年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
文学部	国文学科	90人	中一種免(国語)	昭和45年度	89人	14人	10人	3人
			高一種免(国語)	昭和45年度			14人	
	史学科	135人	中一種免(社会)	昭和45年度	139人	37人	26人	11人
			高一種免(地理歴史)	平成2年度			36人	
	地理学科	95人	中一種免(社会)	昭和45年度	81人	11人	6人	3人
			高一種免(地理歴史)	平成2年度			11人	
	文化財学科	100人	中一種免(社会)	昭和55年度	114人	11人	9人	2人
			高一種免(地理歴史)	平成2年度			11人	
社会学部	社会調査学科	90人	中一種免(社会)	平成22年度	/	/	/	/
			高一種免(公民)	平成22年度			/	
入学定員合計		510人	合計		423人	73人	123人	19人
大学名		奈良大学(大学院)		設置者名		学校法人奈良大学		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成21年度)			
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
文学研究科	国文学専攻	5人	中専免(国語)	平成5年度	1人	0人	0人	0人
			高専免(国語)	平成5年度			0人	
	文化財史料学専攻	10人	中専免(社会)	平成5年度	17人	0人	0人	1人
			高専免(地理歴史)	平成6年度			0人	
	地理学専攻	5人	中専免(社会)	平成11年度	4人	2人	1人	1人
			高専免(地理歴史)	平成11年度			2人	
入学定員合計		20人	合計		22人	2人	3人	2人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成22年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

# 実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成22年11月19日（金）

実地視察大学：奈良大学

実地視察委員：横須賀薫委員、八尾坂修委員、村松泰子委員

## ■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

### <状況>

- ・大学では文学部4学科、社会学部1学科で、大学院では文学研究科3専攻で教員養成を行っている。

### <講評>

- ・教員養成に関する教育課程、教員組織等について、一部、教職課程認定基準を満たしていないので、早急な改善を求める。

## ■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

### <状況>

- ・「正しきに強き」「努力が天才である」という建学の精神を踏まえ、絶え間ない努力の積み重ねによって人生を切り拓いていく強くたくましい人材、社会に貢献する人材の育成を行うことを大学の基本理念としている。この基本理念は、教員養成の理念にも通じており、専門性と人間性を併せ持った教員の養成を目指している。

### <講評>

- ・貴学としての教員養成に対する理念・構想は示されているが、その理念を具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織が充実したものとなるように、これらの充実した取り組みに一層努めてほしい。

## ■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

### <講評>

- ・教科に関する科目について、「他学科科目」及び「全学自由科目」が施行規則第4条表に定める科目区分の半数を超えて設定されている課程が多数あるので、学則の変更を早急に行うこと。
- ・学生の実践的指導力を養うために、模擬授業を積極的に取り入れていることは評価できる。
- ・「教育心理学」と「発達教育論」の配当年次に不備な点があるので、カリキュラムの見直しを行ってほしい。
- ・教職に関する科目について、教育現場における教職経験を有し、かつ実践的な指導力を保持している者を担当教員として充てるなどして、教授内容の更なる充実を図ってほしい。
- ・シラバスの授業内容欄について、複数回に渡って同様の授業内容を記載することは認められないため、各回のキーワードを付すなどして、必ず各回で異なる内容を扱

うことが分かるよう修正すること。

- ・出席を積極的に評価に加えている授業があるが、原則として授業に出席することが通常であるため、評価方法を見直すことが望まれる。

## ■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・原則として教育実習協力校に依頼するが、ほとんどの学生は母校で実習している。
- ・教育実習の受講資格について、3年次末までに教職に関する科目の全科目の単位修得並びに卒業要件科目100単位以上修得の2点を前提要件としている。

<講評>

- ・母校実習については、中央教育審議会での大学側の対応や評価の客観性の確保の点で課題も指摘されており、できるだけ避ける方向で検討してほしい。

## ■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・奈良市教育委員会と「教員の資質の向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応することにより、奈良市の教育及び大学における教育・研究の充実発展に資することを目的」として平成16年に協定を締結しており、この協定に基づき、奈良市立幼稚園、小学校、中学校で教育活動を行う「学校教育活動支援事業」に教職課程の学生が従事している。

## ■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・教職課程運営専門部会が決定した方針に基づき、学生支援センター（教務担当）が窓口となって履修指導及び履修相談にあっている。
- ・各学年ごとに年度当初にはガイダンスを実施しており、『履修要項』『教職課程ハンドブック』『開講科目表』に基づいて履修上の諸注意を説明し、計画的な履修を促している。

<講評>

- ・学生が履修計画を策定するにあたっての支援・相談体制の充実を図るためにも、「教職センター」の設置を検討してほしい。

## ■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・教職課程の充実や運営上の諸問題の解決・調整に当たるために、全学教務委員会のもとに「教職課程運営専門部会」を設置している。

<講評>

- ・教職指導体制の充実に向けて、学長を議長とする全学的な組織を検討してほしい。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・教職に関する科目に係る図書が、資格科目資料室・キャリアセンター・図書館に分散されているので、一カ所に集めてひとまとめにするなど、図書の適切な配置を検討すること。
- ・教職に関する科目に係る図書が充足されているとは言えないため、今後、図書の拡充を図ってほしい。